

全4回のまとめ

本事業については、4つの視点を持って実施した。それらについて、事業全体を通して評価してみたい。

・ストーリー性を持った展開

各回が独立して展開されるのではなく、次の回のイメージを持ったさせるために、しおりに「次のたんけんで何しよう？」という内容について記載する欄を設け、次回への意欲を高める取り組みを実施した。実際にはプログラムが決まっていたために、参加者が記入したやりたいことなどをプログラムとして取り入れることは難しかった。自分で記入することで、プログラムの確認や次回への意欲を高めるきっかけにはなっていたと感じている。よりストーリー性を持った展開にするためには、次のたんけんのプログラム説明をしたうえで、どんなことにチャレンジしてみたいのか、またそれに向けての自分自身で準備したいことなどより具体的にしてもよいかと考えている。

また、野外炊飯を毎回取り入れたことにより、参加者の料理作りに対する意欲が高まり、協力しながら行えるようになっていた。繰り返し体験することで自信を持てたようである。一方で、テント泊や寝袋を使って寝ることなどは、基本的なテントのたて方や片づけ方、寝袋のたたみ方などを、きちんと伝えられないままであったために、十分にできたとは言えない。次年度以降は、自分たちでできるようになるような練習の機会を設け、実施してみたいと考えている。

ストーリー性という面に関しては、本年度は十分に検討できなかった。たんけん隊の隊員として、地域で様々な体験を通して、どんな発見をしたのか、何を感じる事ができたのか、より一歩踏み込んでまとめていく必要もあるのかもしれない。例えば、全員で地域のたんけんマップを作るなど、4回を通して何かを作り上げていくというストーリーも考えられる。参加者がモチベーションを持って臨むことができる事業となるような工夫を検討したい。

・四季を通した様々な体験

春は海のいきもの探しとスノーケリング、夏はスノーケリングとキャンプ、秋はハイキングと農業体験、冬は雪遊びと、年間を通した事業は様々な体験ができた。第4回のアンケートで、また自然の家の事業に参加したいかどうかを尋ねたが、1名を除いて、また参加したいと答えてくれていた。自由記述の中にも「楽しかった。」「しぜんとなかよくなった。」「いろいろなことにチャレンジできた。」など、参加者にとって、いい体験ができたのではないかと感じている。保護者のアンケートからも「季節ごとの年4回シリーズは、「次回を楽しみ」のようで、本人にも負担なくいいペースのように思います」とあった。次年度も年間4回の事業を計画し、季節ごとのプログラムを検討していきたい。

夏と秋は、テント泊を実施したが、できる限り自然の中で過ごす時間を多くするというねらいに合わせて、春のテント泊についても次年度は検討したいと考えている。

・新たな連携や新たなフィールドでの活動

若狭湾の地域資源を生かした活動を行うために、これまで連携していなかった団体や活動をしたことがないフィールドにも積極的に出向き、そこでできる体験を検討していきたいと考え、夏は「カタボコ浜」でのテント泊、秋は「かみなか農楽舎」での農業体験、冬は

「マキノスキー場」での雪遊びを実施した。次年度以降もこうした場所や施設、団体とも連携しながら、よりよい事業となるように連携を深めていきたいと考えている。連携をすることで、当施設ではできない体験ができるようになる。また、もう一度体験したいと思ったときに、家族でもりようすることができる。場所や施設、団体の情報などを積極的に保護者にも提供するような工夫を次年度以降はしたいと思う。

・低年齢期の子どもの特性

親元を離れて初めて泊まる子どもたちも多かったが、ボランティアスタッフのサポートもあり、バイキング形式での食事の際の配膳、着替え、洗面、入浴がなど生活面で困ったことはそれほど起きなかった。ホームシックについても心配していたほど、起きなかった。しかしながら、荷物の整理整頓や片づけなどはもう少し丁寧に対応する必要もあるかと考えている。オリエンテーション室の机の上が雑然としていることが多かった。例えば、クリアケースなどに必要なものを入れるようにするなど、どこに何を置いたらいいのか、より丁寧にする方法も考えてみたい。また、忘れ物も多かった。荷物の準備を自分でしている参加者もいたようだが、自分の持ち物を自分のものとして管理することはなかなか難しい。名前をきちんと書かせたり、整理整頓する時間を設けたりしながら、忘れ物を減らす工夫についても検討をしていきたい。

参加者に話を聞かせることが難しいと感じた。話し方や話す内容、または注意のひき方など、今後も工夫をしていきながら、参加者に必要なことが伝わるようにしていきたいと考えている。

体験したことのまとめとして、各回とも、感じたことや発見したことを、絵に表現してもらった。特に、第1回では、小学1年生の参加者にとっては、絵に描くことすらおぼつかなかったが、回を重ねるごとに、表現も豊かになってきたように感じている。絵については、描くだけにとどまってしまうので、次年度については、例えば施設で展示したり、次回までに画集としてまとめたりするなど、工夫することも検討したい。